

經濟論叢

第164卷 第5号

瀬地山 敏教授記念號

献 辞	西 村 周 三	
ミクロ・マクロ・ループについて	塩 沢 由 典	1
進化経済学と複雑系	有 賀 裕 二	74
戦 略 の 進 化	高 増 明	100
不確実性下の意思決定理論	竹 治 康 公	121
非平衡非線形経済システム試論	吉 田 和 男	145
H. J. ダヴェンポートの貨幣的マクロ経済理論	小 島 専 孝	162

瀬地山 敏 教授 略歴・著作目録

平成11年11月

京 都 大 学 経 済 学 會

瀬地山 敏 教授 略歴

1936 (昭和11) 年 4 月 12 日 鹿児島市に生まれる

学 歴

1952 (昭和27) 年 4 月 鹿児島県立甲南高等学校入学
 1955 (昭和30) 年 3 月 鹿児島県立甲南高等学校卒業
 1955 (昭和30) 年 4 月 京都大学経済学部経済学科入学
 1960 (昭和35) 年 3 月 京都大学経済学部経済学科卒業
 1960 (昭和35) 年 4 月 京都大学大学院経済学研究科修士課程入学
 1962 (昭和37) 年 3 月 京都大学大学院経済学研究科修士課程卒業
 1962 (昭和37) 年 4 月 京都大学大学院経済学研究科博士課程入学
 1965 (昭和40) 年 3 月 京都大学大学院経済学研究科博士課程単位修得退学
 1986 (昭和61) 年 1 月 京都大学経済学博士

職 歴

1965 (昭和40) 年 4 月 甲南大学経済学部講師 (昭和44年 3 月まで)
 1969 (昭和44) 年 4 月 京都大学経済学部助教授 (昭和60年 3 月まで)
 1975 (昭和50) 年 9 月 ハーバード大学エンチン研究所招聘研究員
 (昭和51年 8 月まで)
 1976 (昭和51) 年 9 月 ケンブリッジ大学政治経済学部客員研究員
 (昭和52年 8 月まで)
 1985 (昭和60) 年 4 月 京都大学経済学部教授
 (平成 9 年から改組により京都大学大学院経済学研究
 科教授)
 1986 (昭和61) 年 7 月 京都大学評議員 (昭和63年 6 月まで)
 1987 (昭和62) 年 4 月 大韓民国檀国大学招聘教授 (昭和62年 9 月まで)
 1991 (平成 3) 年 4 月 京都大学経済学部長経済学研究科長
 (平成 5 年 3 月まで)
 1994 (平成 6) 年 5 月 京都大学学生部長・留学生センター長
 (平成 7 年12月まで)
 1994 (平成 6) 年 5 月 京都大学国際教育プログラム委員長 (現在に至る)
 1996 (平成 8) 年 4 月 京都大学総長特別補佐 (平成 9 年12月まで)

学 会

- | | |
|---------------|---|
| 1965 (昭和40) 年 | 日本経済学会入会 |
| 1984 (昭和59) 年 | 経済学史学会入会 |
| 1995 (平成7) 年 | 進化経済学会入会 (現在会長) |
| 1996 (平成8) 年 | 国際シュムペーター学会入会
(現在 <i>Journal of Evolutionary Economics</i> の editor) |

瀬地山 敏 教授 著作目録

研究業績は、ケインズの経済理論に関係するものとそれから展開・派生して研究した領域に関するものに大別される。

[1] ケインズ理論

ケインズの価格理論	経 済 論 叢 第95巻第2号	1965年2月
ケインズ体系におけるミクロとマクロ	甲南大学経済論集 第6巻第1号 (通巻第63号)	1965年7月
マクロ均衡と期待	経 済 論 叢 第119巻第4・5号	1977年4月
期待・物価・産出量	京 都 大 学 経 済 学 博 士 論 文 (第63号)	1986年1月
失業とインフレーション	瀬地山敏編著『マクロエコノミックス』(昭和堂)	1986年6月
資本の限界効率と使用者費用	経 済 論 叢 第139巻第1号	1988年1月

[2] 生産・消費・資本をめぐる論争

標準商品の意義	経 済 論 叢 第111巻第1号	1973年1月
資本蓄積と生産関数	経 済 論 叢 第111巻第5-6号	1973年5月
剰余価値率の測定	経 済 論 叢 第114巻第1-2号	1974年7月
スラッファの体系	菱山泉編著『限界革命の経済思想』(有斐閣)	1978年
価値学説	『経済学大辞典』第一巻 (東洋経済新報社)	1978年

備考：この一連の研究は、ケインズ理論を定式化するのに遭遇した論点を解明するのに必要であったと同時に、つぎの [3] の研究の基礎となった。

[3] 産業の構造と発展

現代多国籍企業の技術選択 (吉見威志氏と共著)	日本貿易振興会	1983年
Economic Development and the Structure of Industries	The Kyoto University Economic Review Vol. LVIII, No. 2	1988年10月
「産業構造」から見る技術移転の評価	アジア経済 Vol. 30 No. 10・11	1989年10・11月
産業構造と価格分析	経 済 論 叢 第146巻第1号	1990年7月

[4] 経済システムの時間的叙述あるいは進化・複雑系としてのシステム

企業行動と利潤の最大化 (一)	甲南経済学論集 第8巻第4号 (通巻第78号)	1967年11月
企業行動と利潤の最大化 (二)	甲南経済学論集 第8巻第5号 (通巻第79号)	1967年12月
企業行動と利潤の最大化 (三)	甲南経済学論集 第8巻第6号 (通巻第80号)	1968年2月
企業行動と利潤の最大化 (四)	甲南経済学論集 第9巻第1号 (通巻第81号)	1968年5月
On Nash Solution	<i>The Kyoto University Economic Review</i> Vol. XLI, No. 1	1971年4月
ポスト・ケインジアンの新しい模索	季刊現代経済 No. 30	1978年春季
経済分析における「時間」の重要性	経済セミナー No. 381	1986年10月
時間・不確実性と貨幣	ヘーゲル学報 創刊号	1990年7月
複雑系としての経済	経済セミナー No. 509	1997年6月